

緑と清流と紺碧の映える町

# 生涯学習推進大綱



河 津 町

河津町教育委員会

## 目 次

はじめに	
I 基本的な考え	1
II 町づくりと生涯学習	
1 「めざす将来像」に対応する生涯学習の柱	2
2 生涯学習推進の方針	3
III 生涯学習推進の組織	
1 組織図	4
2 機能と構成	5
IV 生涯各期の学習	
1 年齢層別学習の構想	7
2 生涯学習の柱と年齢層別学習のめあて	8
V 生涯学習への移行期の事例	9

おわりに

## はじめに

我が国の社会生活の動向は歴史的に見て大きな転換期を迎えている。それは生産を重点とし、働くことに人間の生きがいを求める人生設計から、自由時間を増やし働くとともに余暇を楽しみ、より豊かな人生設計をしようとしている点である。リゾート法の制定や土曜閉庁等の具体的な動きの中で、我が河津町も住んでよく、来客の方々にも楽しく過ごしてもらえる、観光を基幹産業とした町づくりを進めているところである。

今後進展が予想される交流範囲の拡大や、生活様式の多様化のなかで問われるのは、「真の豊かさ」を求めることである。一人ひとりが生活の中に希望を持ち、生きがいを感じる精神的な充足感こそ真の豊かさであると思われる。そしてそれはとりもなおさず生涯学習の展開によってもたらされるものであると考える。ここに生涯学習推進大綱を策定し、本町生涯学習の進むべき方向を確定したゆえんである。

## I 基本的な考え

「揺り籠から墓場まで」という言葉に表されるように、教育が人生の全期間に亘って行われるべきことは早くから言われているところである。さらに言うならば、出生以前の受胎とともに始まるとさえ言われている。

しかしながら理念としては分かっているが、実際の学習については個人やそれぞれの機関の独自の考えに委ねられ、一つの体系としてのまとまりや統一性といったものにまでは至っていないのが実状である。

近年生活の合理化や生産能力の向上、さらには生活時間に対する考え方の変化等に伴う余暇時間の増大と、人生80年と言われる生存期間の延長によってもたらされる自由時間の増加という、二重の意味における時間的条件の中で生涯学習の必要性が大きく取り上げられることとなった。

さらにいわれるところの情報化、国際化、成熟化等の進展の中で社会生活を営み、社会と共に進歩し、社会の変化に適切に対応していくためには、既存の知識に安住することなく、常に学び続けることによって自己を高めていかなければならない。また絶えず押しよせる技術革新の波のなかで職業生活を営む私達は、ここでもまた新しい知識技術の習得によって、職業の高度化専門化に対応していかなければならない。一方、人間的豊かさ、充実した人生という面から考えるならば、趣味や個性を生かしたゆとりある生きがいが必要と求められなければならない。

ひるがえって家庭生活を眺めるとき、核家族化や少子化等の傾向の中で、三世代に亘る家族の触れ合いの機会も少なくなり、経験豊かな高齢者による指導感化をはじめとする家庭の教育力が問題となり、視聴覚中心の生活、映像文化の氾濫による体験的活動の減退等の問題も抱えている。

このような様々な状況のなかで、きたるべき21世紀に向かって的確に対応していくためには、生涯にわたって絶えず学び続け、有意義で充実した生き甲斐に満ちた人生を送るための、生涯学習の必要性がますます強調される場所である。

## II 町づくりと生涯学習

### 1 「めざす将来像」に対応する生涯学習の柱

「めざす将来像」は、自治体としての町のあるべき姿を求めて設定されたものであるが、それは同時に町民一人ひとりの努力の方向を期待して掲げられたものであり、町づくりの基本となり生涯学習の拠り所となるものである。

また生涯学習の柱は町の理想像を受けて生涯学習を構想し、学習計画を樹立し展開していくに当たって指針となるものであり、一人ひとりかけがえのない個性能力を持ち独自の生活を営む町民が町づくりに関わり、生涯学習を進めていくうえでの課題となり目安となるように設定されたものである。

#### 緑と清流と紺碧の映える町

#### わがふるさと河津

	将来像の基本目標	生涯学習の柱
1	・自然があふれ、快適にらせる美しいまち	ア 自然に対する感謝と畏敬の心 イ 自然の愛護と美化活動
2	・すべての町民が、健康で幸せに暮せるまち	ア 生涯につながる健康安全と福祉 イ 楽しんで続けられる体力づくり
3	・人間性豊かな河津人を育む、文化の薫り高いまち	ア 郷土に対する自覚と郷土愛 イ 生きがいのある文化活動
4	・魅力に満ちたふれあいのある観光のまち	ア 感謝と奉仕の心 イ 隣人愛に支えられたコミュニティ活動
5	・豊かな生活を支える活力に満ちたまち	ア 生産創造の喜びと、勤労に対する感謝の心 イ 創意と合理性に基づく生活設計
6	・町民と行政が連携しあうまち	ア 自由な発言と会議の振興 イ 広報と啓蒙活動



## 2 生涯学習推進の方針

### (1) 河津町のめざす将来像を具現する学習活動

町づくりの基本的な方向を示して打ち出されたのが、河津町のめざす将来像である。したがって、全ての学習活動は、最終的にこの将来像を目指すものであり、これにつながるものでありたい。

### (2) 学習者の自ら学ぶ意志、自己啓発力を土台とする

全ての学習活動の基本が、学習者の自発性に支えられて成立することは勿論であるが、わけても、義務・強制を伴わない生涯学習の場合はなおさらである。学習意欲の喚起に努め、学習ニーズ等の調査も行いたい。

### (3) 地域の力を結集する

地域の指導者を発掘し、地域活動・サークル活動の活発化を図り、各機関・民間団体の指導力を活用する。

### (4) 学習の機会と場の整備

生涯各期における学習計画の明確化と一貫性を図り、「いつでも」「どこでも」「だれでも」学習ができるように促進する。

### (5) 関連施設の整備活用と地区公民館の有効利用

B & G 体育館や学校施設の計画的利用を図るとともに、図書館建設の促進各地区公民館の有効利用を図る。

### (6) 全町的規模にたった推進体制づくり

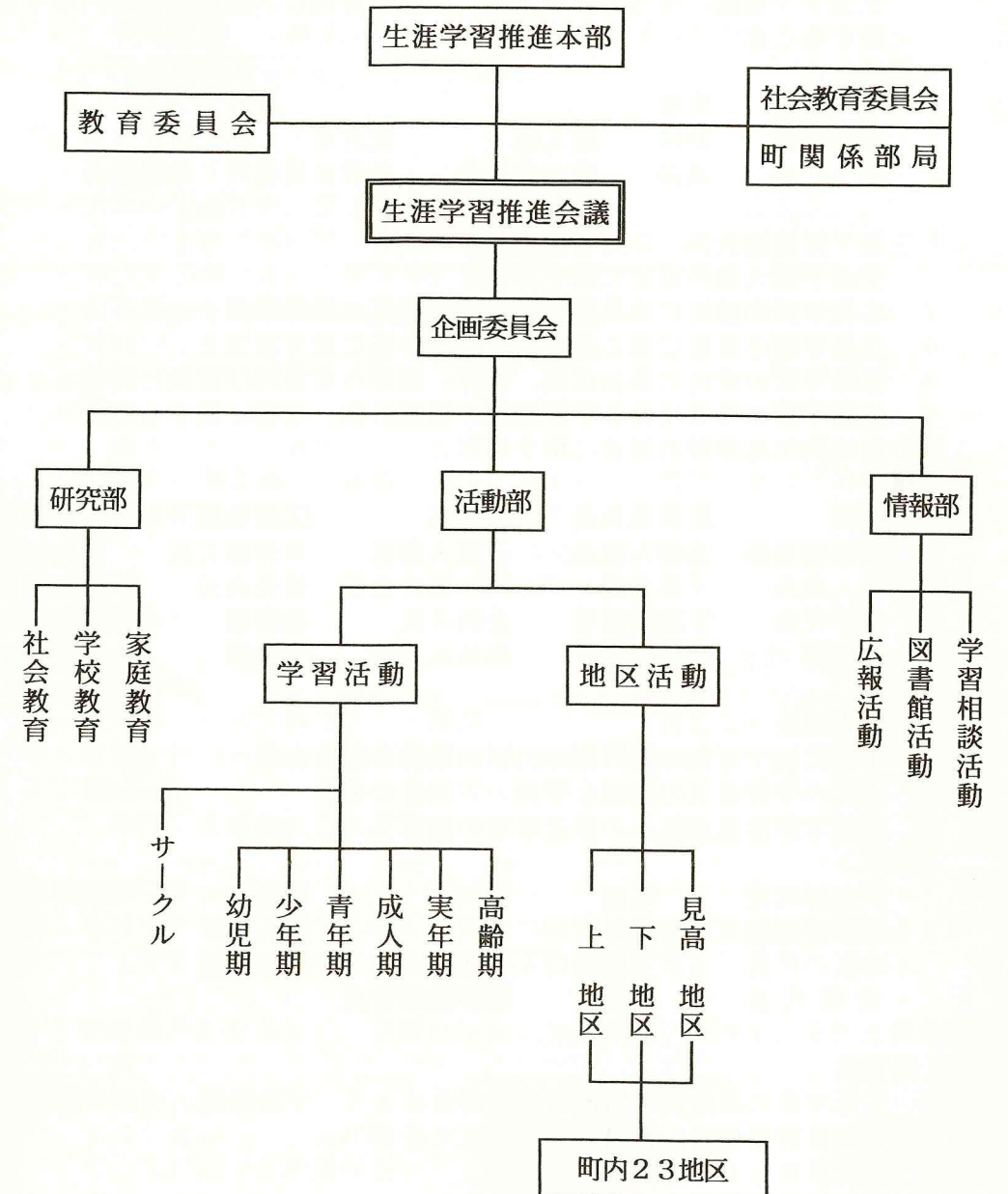
広く町民各層の代表者の参加を得て、全町民の意向を反映した推進体制を組織する。

### (7) 情報の提供

情報の集積、蓄積と学習相談システムの確立を図る。

## III 生涯学習推進の組織

### 1. 組織図



## 2 機能と構成

### (1) 生涯学習推進本部 (8名)

生涯学習推進の基本方針を定め、組織を総括し、生涯学習の円滑な推進に関すること

<構成>

- ・ 本部長 町長
- ・ 副本部長 助役 収入役 教育長
- ・ 部員 議長 教育委員長 社教委員長 総務課長

### (2) 生涯学習推進会議 (30名以内)

- ア 生涯学習大綱の策定に関すること
- イ 生涯学習の推進に係る関係行政機関相互の調整に関すること
- ウ 生涯学習の推進に係る調査研究及び評価に関すること
- エ 生涯学習の推進に係る広報、啓発、情報の収集及び提供に関すること
- オ 生涯学習の推進に係る学習施設の整備計画、立案に関すること
- カ その他生涯学習の推進に関すること

<構成>

- |       |       |          |       |        |
|-------|-------|----------|-------|--------|
| 助役    | 教育委員長 | 教育長      | 区長会長  | 文厚委員長  |
| 社教委員長 | 上婦人会長 | 下婦人会長    | 体育協会長 | 文化協会長  |
| 老人会長  | 子連会長  | PTA 連合会長 | 校長会長  | 社教指導員  |
| 青年代表  | 学識経験者 | 企画委員     | 総務課   | 町長公室   |
| 住民課   | 商工観光課 | 農林水産課    | 保健課   | 教委事務局長 |

### (3) 企画委員会 (13名)

- ア 学習に関する具体的対策の内容の検討と原案作成
- イ 町民の学習要求の把握と学習の方向性の検討
- ウ 生涯学習推進会議への推進事項の提言

<構成>

- |         |   |     |        |      |      |
|---------|---|-----|--------|------|------|
| ・ 研究部代表 | ： | 家庭  | 学校     | 社会   | 地域   |
| ・ 学習部代表 | ： | 青年  | 老人     | 婦人   | サークル |
| ・ 地区の代表 | ： | 上地区 | 下地区    | 見高地区 |      |
| ・ 情報代表  | ： | 広報  | 体育指導委員 |      |      |

### (4) 研究部

生涯学習の諸活動が円滑に推進できるよう、学習課題の選定や活動方法等を具体的に検討し資料として提供する

#### A 家庭教育 (11名)

- ・ 基本的生活習慣の育成に関すること
- ・ 家庭教育のあり方に関すること
- ・ PTA活動に関すること

<構成>

- 校長代表 教頭代表 教諭 (幼1、小1、中1)  
PTA (幼2、小2、中1) 学識経験者 (1)

### B 学校教育 (10名)

- ・ 地域の期待に応える学校教育に関すること
- ・ 「開かれた学校」への対応

<構成>

- 校長代表 教頭 (小1、中1) 教諭 (小3、中1)  
学識経験者 (3)

### C 社会教育 (11名)

- ・ 高齢者の生涯学習に関すること
- ・ 実年の生涯学習に関すること
- ・ 成人の生涯学習に関すること
- ・ 青少年の健全育成に関すること
- ・ 在学青少年の地域における活動に関すること
- ・ 地域づくりに関すること
- ・ 体力づくりに関すること

<構成>

- 婦人代表 青年代表 成人代表 実年代表 高齢者代表  
体育指導委員 体協 (男1、女1) 芸術文化 (2)  
学識経験者

### (5) 活動部

#### A 学習活動

#### B 地区活動

- ・ 地域づくり諸活動の計画・推進
- ・ 地域の青少年健全育成の推進

<構成>

- 各区に推進委員会を設定

### (6) 情報部 (7名)

- ア 生涯学習推進に関する幅広い情報の収集、提供学習相談に関すること
- イ 生涯学習推進のための広報、啓発活動に関すること

ウ 図書館活動を通して、学習コミュニケーションを図り、町民の教養の向上に関すること

<構成>

- 協議会委員 学識経験者 図書館職員 相談室担当者  
町広報担当 教員代表 体育指導委員

A 学習相談活動・・・専任の相談員を置く

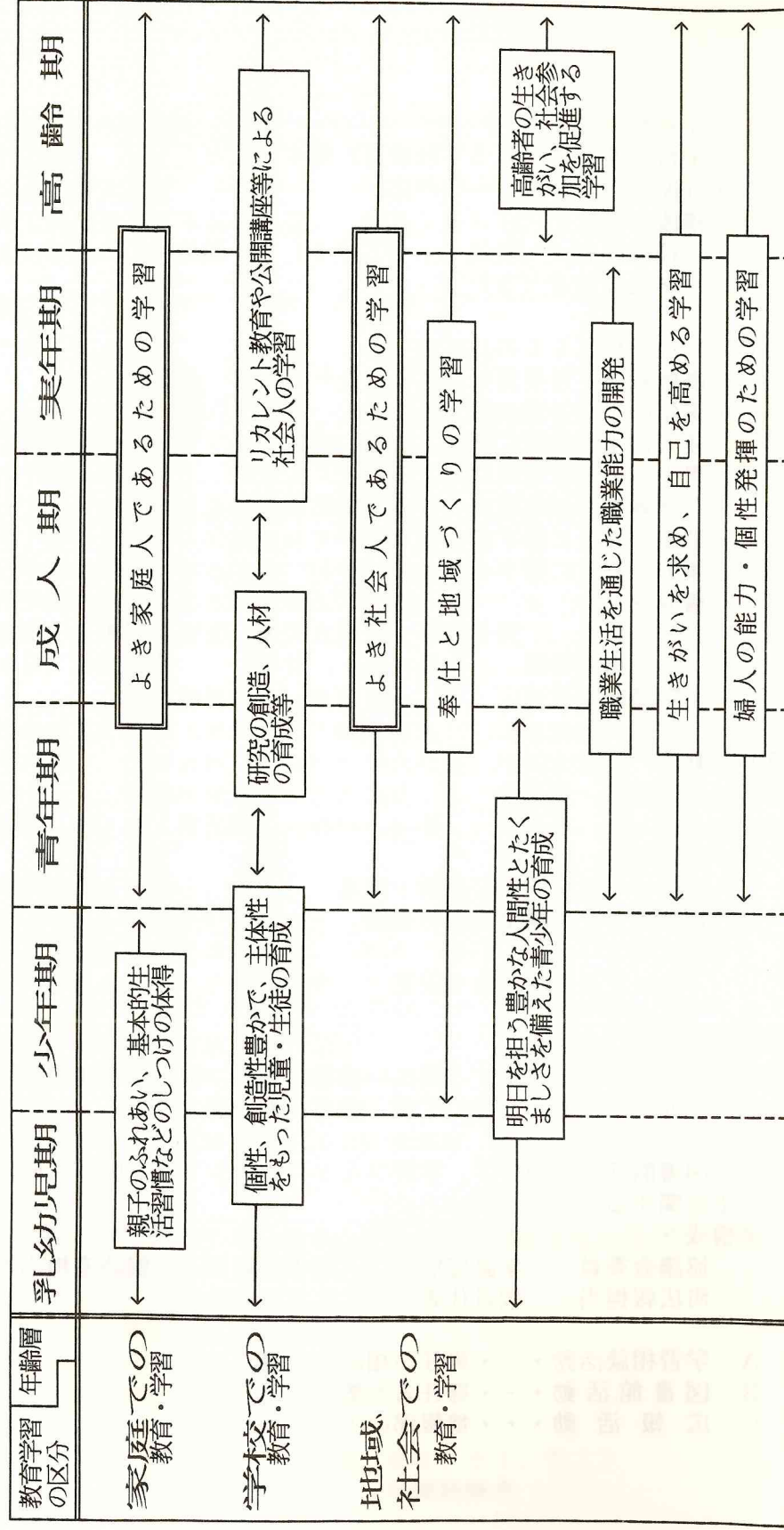
B 図書館活動・・・専任者を置く

C 広報活動・・・情報部の中から



IV 生涯各期の学習

1 年齢層別学習の構想



	成人期 30～49歳	実年期 50～64歳	高 齢 期 65歳 以上
自然と共生	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然を生かした町づくりに、進んで実践的な役割を果たす</li> <li>郷土の環境保全に関心をもち、地域における美化活動の推進に努める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然を生かした町づくりに、指導的な役割を果たす</li> <li>郷土の環境保全美化に対する指導的な役割を果たす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>恵まれた自然を、次代に引継ぐようにする</li> <li>地域の環境美化活動に協力する</li> </ul>
健康と幸福	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の人々の健康安全に対して実践的な役割を果たす</li> <li>地域福祉のリーダーとなって福祉の輪を広げる</li> <li>積極的に運動に親しみ、体力の保持に努める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康安全の保持に努める</li> <li>福祉の精神が息づく町づくりに貢献する</li> <li>自分の体力に適した生涯運動を確立する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康安全に一層努める</li> <li>助け助けられながら交流の輪を広げる</li> <li>体力に応じた軽い運動を続け、心身の健康に努める</li> </ul>
人間性と個性	<ul style="list-style-type: none"> <li>祭りや行事に参加し、活動の中心となる</li> <li>芸術・文化的な視野を広げ、活動する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>祭りや行事の推進の中心になり、責任を持つ</li> <li>芸術・文化的な行事の推進の中心になり活動する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>祭りや行事の推進の後押しをし、活動を促す</li> <li>郷土の文化の伝承に努め後継者の育成に尽くす</li> </ul>
社会参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>お互いに支え合い積極的に社会に奉仕する</li> <li>あいさつ運動の中心となり推進する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>奉仕活動推進の中心となり実践する</li> <li>地域社会のリーダーとなって活躍する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感謝と奉仕の心で、豊かな日常生活を送る</li> <li>温かいふれあい活動に、進んで参加する</li> </ul>
豊かな生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の仕事に自信と誇りを持ち、地域の発展に努める</li> <li>専門的知識習得に励み、地域に貢献することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの仕事を通して後継者の育成に努める</li> <li>積極的に町の資源の活用を図り、活力ある町づくりを推進する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分に合った仕事を通して働く喜びを深め、住みよい町づくりに努める</li> <li>豊かな経験を生かし、生きがいのある生活を送る</li> </ul>
町づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>特色ある町づくりを目指し、行政に対して自己の意見を述べる</li> <li>行政や各団体の活動に積極的に参加し、地域の輪を広げる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の意見をまとめて行政に反映させる</li> <li>町の将来に目を向けて、地域のリーダーとして活動する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊富な経験や知識をふまえて、町づくりを助ける</li> <li>将来の町を背負う人材を育て、活動に協力する</li> </ul>



## 2. 生涯学習の柱と年齢層別学習のめあて

基本目標	生涯学習の柱	人生各期					
		乳幼児期 0～6歳	少年期 7～15歳	青年期 16～29歳	成人期 30～49歳	実年期 50～64歳	高齢期 65歳以上
1 自然と快適	ア 自然に対する感謝と畏敬の心	・身近な自然に親しむ	・郷土の自然に親しみ、大切に する	・郷土の特質を理解し、誇り を持つ	・自然を生かした町づくりに、 進んで実践的な役割を果たす	・自然を生かした町づくりに、 指導的な役割を果たす	・恵まれた自然を、次代に 引継ぐようにする
	イ 自然の愛護と美化活動	・生き物とかかわり合い、 かわいがる	・生き物を育て、かかわり 合いを深める	・環境保全や美化に進んで 取り組む	・郷土の環境保全に関心を 持ち、地域における美化 活動の推進に努める	・郷土の環境保全美化に対 する指導的な役割を果たす	・地域の環境美化活動に協 力する
2 健康と幸せ	ア 生涯につながる健康 安全と福祉	・友達と仲良く遊ぶ	・健康で安全な生活ができる	・自ら進んで健康安全の確 立に努める	・地域の人々の健康安全に 対して実践的な役割を果 たす	・健康安全の保持に努める	・健康安全に一層努める
	イ 楽しんで続けられる 体力づくり	・自然の中で、活発に遊ぶ	・人の痛みがわかる優しい 心を持つ	・福祉のボランティアなど に、進んで取り組む	・地域福祉のリーダーとな って福祉の輪を広げる	・福祉の精神が息づく町づ くり貢献する	・助け助けられながら交流 の輪を広げる
3 人間性と文化	ア 郷土に対する自覚と 郷土愛	・祭りや行事の楽しさを知 る	・祭りや行事に参加し、 興味をもつ	・祭りや行事に参加し、 進んで活動する	・祭りや行事に参加し、 活動の中心となる	・祭りや行事の推進の中心 になり、責任を持つ	・祭りや行事の推進の後押 しをし、活動を促す
	イ 生きがいのある文化 活動	・美しい物や優れたものに 多くふれる	・郷土の文化や歴史に関心 をもち、それを学ぶ	・芸術・文化的な行事に 進んで参加する	・芸術・文化的な視野を広 げ、活動する	・芸術・文化的な行事の推 進の中心になり活動する	・郷土の文化の伝承に努め 後継者の育成に尽くす
4 ふれあい	ア 感謝と奉仕の心	・自分のできることを進ん でやる	・地域とのかかわり合いの 中で、奉仕活動の体験を する	・率先して地域奉仕活動に 参加する	・お互いに支え合い積極的 に社会に奉仕する	・奉仕活動推進の中心とな り実践する	・感謝と奉仕の心で、豊か な日常生活を送る
	イ 隣人愛に支えられた コミュニティー活動	・家庭でさわやかなあいさ つができる	・親を大切にすることを養 う	・あいさつ運動の輪を広げ る	・あいさつ運動の中心とな り推進する	・地域社会のリーダーとな って活躍する	・温かいふれあい活動に、 進んで参加する
5 豊かな生活	ア 生産創造の喜びと、 勤労に対する感謝の心	・家での手伝いができる	・働く経験を通して勤労の 喜びと大切さを知る	・勤労の尊さを知り、自分 の仕事に責任と誇りを持 つ	・自分の仕事に自信と誇り を持ち、地域の発展に努 める	・自らの仕事を通して後継 者の育成に努める	・自分に合った仕事を通し て働く喜びを深め、住み よい町づくりに努める
	イ 創意と合理性に基づ く生活設計	・よい生活習慣を身につけ る	・正しい目標に向かい、計 画的な生活に努める	・サークル活動に積極的に 参加し、自己啓発に努め る	・専門的知識習得に励み、 地域に貢献することがで きる	・積極的に町の資源の活用 を図り、活力ある町づく りを推進する	・豊かな経験を生かし、生 きがいのある生活を送る
6 町民・ 行政連携	ア 自由な発言と会議の 振興	・人前で話ができるように する	・自分の考えを発表したり 相手の意見を聞くことが できるようにする	・町民としての誇りを持ち 建設的な意見を発表でき るようにする	・特色ある町づくりを目指 し、行政に対して自己の 意見を述べる	・地域の意見をまとめて 行政に反映させる	・豊富な経験や知識をふま え、町づくりを助ける
	イ 広報と啓蒙活動	・役場・公民館などの官公 署を知る	・行政と私達の暮らしのつ ながりを知る	・行政や各団体の活動に 積極的に参加する	・行政や各団体の活動に積 極的に参加し、地域の輪 を広げる	・町の将来に目を向けて、 地域のリーダーとして活 動する	・将来の町を背負う人材を 育て、活動に協力する



# V 生涯学習への移行期の事例

生活領域	対象の年齢層 学習活動	乳幼児期	少年期	青年期	成人期	実年期	高齢期
		0～6歳	7～15歳	16～29歳	30～49歳	50～64歳	65歳以上
個人学習に関する内容	趣味・娯楽			○水彩画教室 ○陶芸教室 ○写真教室	○文化協会各部活動		○高齢者料理教室
	教養・文化			○英会話スクール ○毛筆講座			○老人ク・寿大学講演会
	レクリエーション	○軽スポーツの夕べ (アニメ・レク・花火)	○子供球技会、バミントン大会	○若鮎リーダーズ			○寿大学カルタ会
	スポーツ体力づくり	○おひっこ水泳教室 ○親子水泳教室 ○元旦アソビ	おひっこマラソン	○河津一下田駅伝大会	○河津町内駅伝大会		○高齢者スポーツ大会
	健康管理		○野球クラブ、初心者水泳教室	○レディース水泳教室	○エアロビクス教室	○ビーチボール教室	○体育協会各種スポーツ
	職業的知識・技能		○健康づくり広場 (健康についての話・ストレッチ体操)		○婦人学級	○健康づくり教室	○寿大学健康づくり
	交通安全	○交通安全教室		○ワープロ講座	○農業技術講座	○農業経営講座	
河津町文化祭 (河津町文化協会が中心となり、展示・舞台発表)							
家庭・町民に関する学習	子どもの育児			○母親の子育て講座 ○離乳食教室			
	明るい家庭づくり			○幼稚園・小学校家庭教育学級		○婦人学級	
	人権		○人権作文	○生活相談			
	消費者生活			○町県民税申告相談	○法人税務講習会	○消費税研修会	
	地域の歴史文化財		○ふるさと学級文化財巡り	○文化財説明会	○郷土の歴史講座		○寿大学文化財巡り
	組織団体の指導者		○社会参加研修会 ○インリーダー	○青年の集い			
地域づくりに関する学習	青少年の健全育成		○海外体験航海少年の船 ○ふるさと学級 ○海洋クラブ	○海外体験航海若人の船	○県青年の船	○青少年育成講演会	
	ボランティア活動		○ふるさと学級駅前清掃 ○小学校・海岸河津川清掃 ○中学校・河津川清掃	○若鮎り地区クリスマス会活動			○寿大学緑地帯清掃
	社会福祉	○ふれあい広場			○地区で敬老会の手助け		
	コミュニティづくり			○各地区コミュニティ委員会			
	防災害	○9月1日町総合防災訓練	○12月1日地区防災訓練				
	情報提供	○河津町産業祭り	○広報かわづ	○郷土読本「わたしたちの町かわづ」			
	祭と観光	○各地区での祭典や観光イベント (乗り初め祭、灯籠流し、むぎわら船流し、今井浜花火大会、大噴湯祭、滝祭、踊子まつり)					
河津町民大会 (体育)							



# V 生涯学

生活領域	対象の年齢層		
	学習活動	実 年 期 50～64歳	高 齢 期 65歳 以上
個人学習に関する内容	趣味・娯楽	各部活動	○高齢者料理教室
	教養・文化		○老人ク・寿大学講演会
	レクリエーション		○寿大学カルタ会
	スポーツ体力づくり		○高齢者スポーツ大会
	健康管理	健康づくり教室	○体育協会各種スポーツ
	職業的知識・技能		○寿大学健康づくり
	交通安全		
家庭・町民に関する学習	子どもの育児		
	明るい家庭づくり	○ 婦人学級	
	人権		
	消費者生活	研修会	
	地域の歴史文化財		○寿大学文化財巡り
地域づくりに関する学習	組織団体の指導者		
	青少年の健全育成	育成講演会	
	ボランティア活動		○寿大学緑地帯清掃
	社会福祉		
	コミュニティづく		
	防災害		
	情報提供		
祭と観光	踊子まつり)		
会 ( 体 育 )			

## おわりに

河津町生涯学習推進大綱がようやく発刊の運びとなった。本事業はもともと平成元年度事業として県の助成を受けながら出発した事業である。ところが10年を期として策定される町の総合計画がたまたま今年度更新期にあたり、新たな町づくりの指針として『河津町新総合計画』が策定された。したがってそれに伴い生涯学習推進大綱策定作業もこの新総合計画を基本とし、それとの整合性を図りながら、新たな視点に立って策定することとなった。

また、策定にあたっての基礎資料として、町民の中から年代層別に約5%を抽出し、生涯学習に対する意識・関心・経験等をアンケートにより調査し、大綱策定並びに今後の学習推進の参考とした。

年齢層の区切りについては、人生80年時代を迎え「成人期」と「高齢期」の間に「実年期」を設定し、学習の多様化に対応することとした。もちろん人生を6期に区分したといっても、例えば少年期の7歳と15歳では心身ともに大きな差異があり、これを同一のめあてで総括することの困難性は策定作業を進める中でも問題とされたところである。これらは実施計画策定段階での対応に委ねられることとなった。

町の総合計画が21世紀へ向かっての町づくりの理想をうたったものであるのと同じく、本大綱も人づくりの理想として、幼年期から系統的・継続的に学習が積み重ねられることによってはじめて望ましい生涯学習が完成するものであるとの考えに立って策定されたものである。しかしながら、現実には既に各年代層に所属する該当者が存在するわけである。したがって現実の対応としては、現に行われている各種の学習に整理検討を加えながら体系化を図り、P（計画）・D（実践）・S（反省）の立場に立って実践化につなげていかなければならない。『生涯学習への移行期の事例』を添付したのもそのような考えに基づくものである。

2年がかりで作成した大綱ではあるが、あくまで大綱であって、即戦力となる実施計画ではない。建築に例えれば、骨組みが出来上がったところであり、居住の用に供するまでには至っていない。今後、推進会議の構成員、わけても生涯学習推進大綱策定委員として実務に携わって頂いた方々の一層の協力によって、一步一步理想実現への歩を進めていきたいと願っている。

平成3年3月 河津町教育委員会